東郷家古文書

【所　在　地】鹿児島市東千石町２
【種　　別】県指定有形文化財（書跡）
【指定年月日】昭和 34 年 10 月 23 日

近世初頭の東郷家当主東郷重位が，天正 16（1588）年に島津義久の上京に従った時，天寧寺の善吉和尚から天真正自顕流の皆伝を受け，これに工夫を加え，藩主島津家久の前で秘法を披露し，その信任を得て独自の剣法を確立した。家久は重位を藩の剣術師範役に任じた。のち，僧南甫文之の進言により観世音菩薩普門品二十五経文中の「示現神通力」の文字をとり「示現流」とし，門外不出とした。以来，その形・掟は現代の重政まで約 400 年，そのままの姿で伝承されている。

『東郷家古文書』はこの東郷重位によって確立された薩摩独特の剣法「東郷示現流」に関する史料で，約 180 点の直伝書，聞書などが含まれる。伝えられる文書には『示現流燕飛之次第』『示現流問答』等の奥義書のほか，近世初期の鹿児島藩の政治状況等を知る上で興味深い資料も含まれる。